

平成18年10月26日発行

* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *

担い手育成・品目横断的経営安定対策推進メールマガジン（第47号） *

インデックス

【1】品目横断的経営安定対策の加入推進のための全国キャラバンを実施中！

【2】地域の話題等

農業改良普及センターによる法人化支援

（上川町、北海道庁発）

品目横断的経営安定対策の導入に向け、集落営農組織が続々発足！

（岐阜県、東海農政局発）

【1】品目横断的経営安定対策の加入推進のための全国キャラバンを実施中！

この9月1日から、秋まき麦を作付ける農家に係る品目横断的経営安定対策の加入申請の受付が始まりましたが、その加入申請期間も残すところ1か月余りとなりました。

今後、加入申請も本格化していく見込みですが、品目横断的経営安定対策への加入に当たっては、現地の生の声を聞くことにより、各地で生じている疑問や課題を把握し、これに的確に対応していくことが、円滑な加入に結びついていくものと考えています。

このため、加入申請期間の中盤である10月中旬から11月中旬にかけて、農林水産省内に設定した各都道府県担い手育成責任者が分担して、各道府県に直接出向き、道府県や農業関係団体の幹部等から具体的な加入申請の状況を聴き取るとともに、加入予定者の確実な申請等について働きかけを行うこととしています。

各都道府県担い手育成責任者のリストについては、農林水産省担い手ホームページに掲載しています。

<http://www.maff.go.jp/ninaite/menu6.html>

9月末現在の加入申請状況はこちら

<http://www.maff.go.jp/ninaite/menu8.html>

【2】地域の話題等

農業改良普及センターによる法人化支援

(上川町、北海道庁発)

上川町は、北海道の中央部にある上川支庁の中部、大雪山国立公園の麓に位置する農業地帯です。標高が高く、気象条件が厳しい地域ですが、畜産・畑作・稲作と多様な農業の形態がみられます。

同町では、畜産・畑作については、基幹の肉牛生産が輸入自由化等により厳しい状況にあった平成10年頃から地域支援型の農業生産法人が核となって地域全体をリードする「地域農業支援システム」が運用され、機械の共同化やコントラクター、交換耕作と団地化、生産組合による共同生産といったシステム化が高度に進みましたが、540haある稲作地帯については、もち米団地として個別完結型の経営が行われ、共同化やシステム化への対応は遅れている状況でした。

しかし、16年頃からもち米価格が急落して個別経営が困難な状況となったことなどから、地域農業の将来像を見据えて、効率的で安定的な経営体としての法人の育成及びこれを核とする地域農業のシステム化を図るため、JAが中心となって稲作地帯における集落営農組織の設立に向けた動きが始まり、集落からも、普及センターに共同化についての支援要請がなされました。

そこで、普及センターでは、もち米生産は、うるち米と比べて市場規模が小さいこともあり、今後は経営が厳しくなると考えられるため、共同化によるコストダウンは急務であると判断し、集落での話合いに参加するとともに、独自に開発した経営組織化支援ソフト「法人Navi」を用い、共同化・法人化した場合の所得の変化や労働力の有効活用をシミュレーションして有利性を説明するなど、法人組織設立に向けた誘導を行っています。

町やJAからも、書類の作成や設備のリースなど全面的なバックアップがあり、17年度中に、まず構成員6戸、経営面積62.5haの農業生産法人が設立されましたが、地域には、稲作地帯の個別経営を将来的に4つ程度の法人としたいという構想があるため、普及センターとしても、引き続き関係機関と連携しながら、地域農業の構造改革や担い手の育成に向けた取組に対して積極的な支援をすることとしています。

- ・問い合わせ先：上川農業改良普及センター（TEL:0166-84-2017）

品目横断的経営安定対策の導入に向け、集落営農組織が続々発足！

岐阜県下では、品目横断的経営安定対策の導入に向け、集落営農組織が続々と発足しています！

(1) 富加(とみか)町の加治田(かじた)地区は、近年、生産者の高齢化や就農人口の減少が進み、地域ぐるみで農地を守ろうと、昨年末に準備委員会を立ち上げました。その後、「JAめぐみの」と町が協力し、地域内での協議を進め「加治田営農組合」を設立、9月25日に東海初となる特定農業団体が発足しました。

同組合は、水稻と麦・大豆の転作作物を中心に作業を行いつつ、苺や野菜などの農業者とも連携を図りながら地域農業の受け皿となることを目指しています。

(2) 海津(かいづ)市では、米・麦・大豆の2年3作ブロックローテーションが行われ、麦と大豆はこれまでも営農組合が共同で作業を行ってききましたが、本対策に対応する組織の設立に向け、米を含めた経理の一元化などについて「JAしみの」と市が調整役となり、昨年末から100を超える会場で集落座談会を開催してきました。

この結果、100ha規模で4組織、50ha規模で25組織程度が発足する予定で、11月末の秋まき麦の加入申請時期までには全ての組織で手続きが終わる見込みです。

現在も他地区において話し合いが進められていますが、このような取組が県下全域へ波及していくことが期待されます。

・問い合わせ先：『東海農政局担い手相談窓口』(TEL：052-201-7271(内線2449))

< 編集後記 >

「八里半」「十三里」、これはいずれも石焼きいものことです。栗(九里)に近いということで「八里半」、栗(九里)より(四里)うまいということで「十三里」というそうです。

石焼きいものは秋の味覚として根強い人気ですが、さつまいもを直火で焼くと、表面だけが焦げて中までうまく火が通りません。しかし、良く洗った小石を鍋などにしきつめて焼けば、遠赤外線効果で中まで熱が通り、また、酵素がはたらいて多くの糖分が作り出され、甘くてホクホクになります。

是非、ご家庭で石焼きいもを作ってみてはいかがでしょうか。

当メルマガでは、皆様に活用されるメルマガを目指し、担い手育成活動の優良事例等を紹介していきます。皆様の地域での事例、ご意見、メルマガの感想等下記アドレスまでお寄せください。

電子出版：担い手育成・品目横断的経営安定対策推進メールマガジン

発行日　：随時発行（週1回程度）

発行元　：農林水産省　経営局　経営政策課

お問い合わせ先の電子メールアドレス： keiei_seisaku@nm.maff.go.jp

このメルマガの配信申込み、バックナンバーはこちらから。

<http://www.maff.go.jp/ninaite/mailmagazine.html>

農林水産省担い手ホームページもご覧ください！

～品目横断的経営安定対策を含む担い手への支援策、認定農業者数等、担い手情報満載！！～

<http://www.maff.go.jp/ninaite/>